奈良県議会議員 37歳 平成元年生まれ

奈良をもっと選ばれる街へ

永田（ながた）ゆづる 県政ニュース vol.14

令和8年〈2026〉11月
発行 奈良県議会議員 永田ゆづる

Nara Prefectural Administration News

永田の説明書 ホームページ

プロフィール
- 早稲田大学 商学部 卒業
- 自民党奈良県連 政調会長
- 元NHK報道記者 奈良・仙台・東京社会部（皇室・警視庁担当）

その他の活動（所属）
経済労働委員会／リニア新幹線建設促進議連／京奈和自動車道建設促進議連
がん対策推進議連／殺処分ゼロをめざす議連／森林・林業・林産業活性化促進議連

趣味 テニス・サウナ・愛犬 チワワと散歩

奈良市西大寺在住

自由民主党・無所属の会

奈良市東部・山添村で ガソリンスタンド3か所が閉店へ

住み慣れた地域で、これからも暮らし続けたい。そんな当たり前の願いが、人口減少によって少しずつ難しくなっています。来年3月末、奈良市東部の柳生・田原、山添村東山の3か所のガソリンスタンドが一斉に営業を終える予定です。公共交通が限られる地域では、車は買い物や通勤、通院などに欠かせない「生活の足」であり、ガソリンスタンドがなくなれば、給油するためだけに遠くまで車を走らせる必要が出てきます。

暮らしにくくなることで人が地域を離れ、人口が減ることで、さらに生活サービスが維持できなくなる。私は、この悪循環に強い問題意識を持っています。

9月県議会では、知事などに一般質問を行い、生活サービスが失われる兆候を早く捉え、代替手段の確保など、市町村と連携して先手を打つ体制づくりを求めました。人口が減っても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる奈良をつくる。地域の小さな変化や声を見逃さない県政の実現のため、全力で取り組んでいきます。

質問動画はコチラ

9月議会本会議 一般質問

“鹿ミュージアム”の創出を提案

※イメージ

提　案

奈良の鹿を“深く知ること”を観光の新たな目玉にするため、“鹿ミュージアム”の創出を提案しました。奈良の鹿は1300年以上にわたる歴史があり、世代も国籍も超えて人を惹きつける存在です。奈良ではなぜ鹿が大切にされてきたのか。何を食べ、どのような1日を過ごしているのか。角はなぜ毎年生え替わり、子鹿はどう育つのか。鹿の糞を分解するフン虫などの生き物がいて、それが土へ還り植物へつながっていくなど、一頭の鹿への興味から奈良公園全体へと関心が広がっていきます。観光客は鹿の写真を撮り、鹿せんべいをあげています。私はその先に、もっと好奇心が広がるワクワクする経験を創れないかと考えています。**歴史・文化・生態、人と鹿との共生の歴史を、映像やデジタル技術・体験型展示で楽しく学ぶなど、鹿を“深く知ること”自体を新たな価値として創出していける余地は大きいはずです。**

私たち県民にとっては当たり前に見える鹿ですが、その当たり前の中にこそ、奈良にしかない価値があります。奈良観光が長年抱えてきた、日帰り客が多く滞在時間や観光消費額が少ないという課題を解消し、観光客の満足度向上につながるよう取り組んでいきます。

9月県議会

質問動画はコチラ

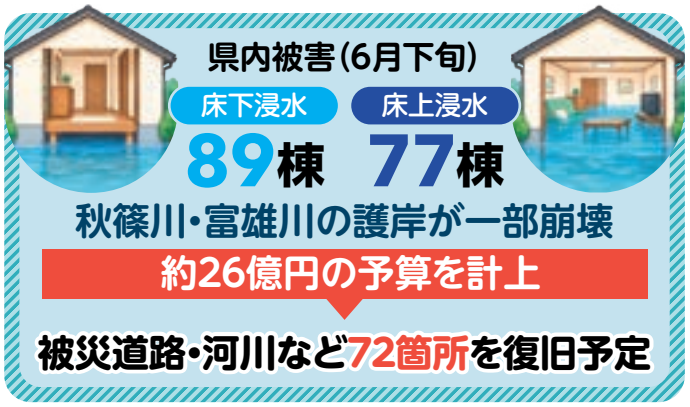
「復旧」で終わらせない 次の大雨への備えを

意　見

県内における6月26日の被害を踏まえ、**大雨で排水が追いつかず、道路や住宅地に水があふれる内水氾濫を防ぐ対策をより一層進めていくことを要望しました。**“内水対策”は市町村が主体で行っており、県からも積極的に支援していくことが重要です。

今回の大雨により、県内では床下浸水89棟、床上浸水77棟という大きな被害が発生しました。大和西大寺駅近くや秋篠川沿いなどでは浸水した住宅もあったほか、富雄川などでは河川の護岸も崩壊しました。

最近では、全国でも短時間の豪雨が相次ぎ、8月には千葉県で13人が亡くなったほか、7000棟を超える住宅が水に浸かるなどの甚大な被害が発生しました。石川県や富山県でも豪雨が降り、数十年に一度と言われる「大雨特別警報」は8月だけで4県に出されました。「次は奈良かもしれない」。全国の被害を見るほど、その思いを強くしています。



今後、奈良県は26億円の予算を計上し、被害のあった河川や道路など県内72箇所を復旧していく予定です。県民の生命と財産を守り、次の被害を減らすためにも、復旧に加えて“内水対策”の強化についてもより一層求めていきます。

“高齢を理由”4人に1人が賃貸住宅への入居拒否

質　問

“高齢を理由”に住まいを借りることのできないお年寄りが増えています。民間会社の全国調査では、**65歳以上で入居を断られた経験がある人は26.8％と4人に1人を占め、このうち55％は複数回断られています。**

県内の高齢化率は令和22年に40％を超えると予想されるだけに、高齢者の住まい探しを本人と家主だけの問題にしてはなりません。

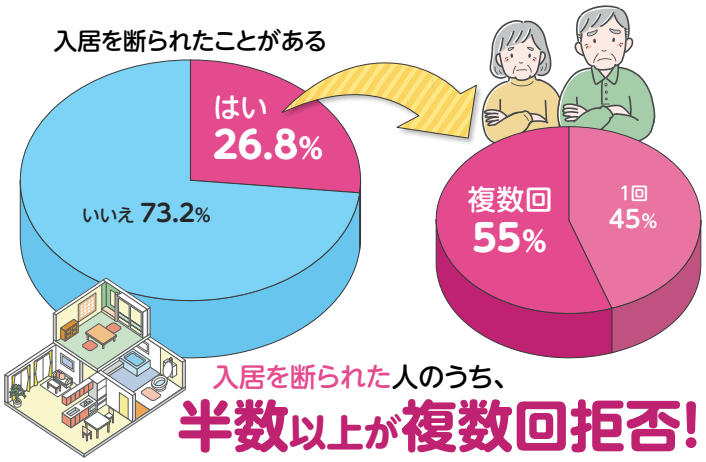
私は、不動産会社や福祉関係者、それに行政が連携して地域の高齢者を支援する“居住支援協議会”という枠組みを広げることが重要だと考えています。住まいの仲介に積極的な不動産事業者を掘り起こし、住宅と福祉の支援をつないでいく場面を増やしていかなければなりません。

しかし現在、この“協議会”は県内39市町村のうち、設置している自治体はありません。物件探しから入居後の見守りまで、高齢者を地域で支えていくためにも、市町村における“協議会”の設置を後押しすべきと考えますが、いかがでしょうか。

県の答弁

市町村における“居住支援協議会”の設立を後押ししていく。さらに、どのくらいの人口に対応できる協議会の規模とするのか目標も掲げていきたい。住宅と福祉をつなぎ、年齢を重ねても、安心して住まいを選べる環境の整備に力を入れていく。

不動産会社に入居を断られた経験がありますか？
また、何回ほど断られたでしょうか？ 65歳以上の方（全国）



入居を断られた人のうち、
半数以上が複数回拒否！

ご要望・相談はコチラから➡

永田ゆづるの“ゆづれない”チャンネル開設しています！

YouTube
チャンネルご視聴はコチラから▶

少人数での座談会・県政報告も行っていますのでお気軽にお声がけください。

奈良県議会議員 永田ゆづる　奈良市登大路町30（県議会控室）
旧 Twitter
TEL:050-3696-1053/FAX:0742-90-1108
Mail：info@yuzurunagata.jp　永田 ゆづる 公式サイト　https://yuzurunagata.jp/